

次期役員候補者のご紹介

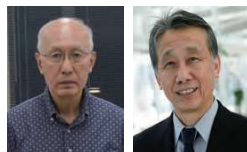
本年11月5日(土)の同窓会総会において、2年ごとに実施している役員選出を行いますので、その候補者の皆様をご紹介します。



会長 中山 裕之 昭和54年卒 大学1期 電気工学科
副会長 椎名 良一 昭和45年卒 高専3期 電気工学科
副会長 久保田 昌彦 昭和61年卒 大学8期 機械工学科
理事 畑 雅博 昭和43年卒 高専1期 電気工学科
理事 三井 和博 昭和48年卒 高専6期 工業化学科
理事 後藤 みき 昭和54年卒 大学1期 電気工学科
理事 川崎 祐二 昭和57年卒 大学4期 機械工学科
理事 遠藤 昌彦 昭和59年卒 大学6期 電気工学科



理事 関口 幸三 昭和62年卒 大学9期 工業化学科
理事 柴山 信夫 昭和63年卒 大学10期 電気工学科
理事 西川 清 昭和63年卒 大学10期 電気工学科
理事 新田 晃司 平成9年卒 大学19期 電気工学科
理事 二神 洋二郎 平成14年卒 大学24期 情報工学科
理事 大谷 昌生 平成26年卒(学部) 博士後期在籍 大学36期 ホームエレクトロニクス開発学科
新任 理事 秋野 裕 昭和54年卒 大学1期 電気工学科



監査 原田 克己 昭和44年卒 高専2期 電気工学科
監査 根本 光正 昭和48年卒 高専6期 機械工学科



静岡・東海地区支部会懇親会報告

7月9日(土)静岡・東海地区支部会が静岡駅前、ホテルアソシア静岡にて開催されました。

新型コロナウイルス感染症対策をとっての開催となり、静岡県内をはじめ、愛知県、神奈川県からもご参加いただきました。ネットワーク拡大の試みとして、座席をランダムに指定し、新たな出会いを求め、楽しいひと時となりました。来年は浜松を予定しています。



名誉教授授与式が挙行されました



令和4年6月9日、名誉教授授与式が執り行われました。小宮一三学長より、5名の方々に名誉教授の称号が授与され、永年に亘り本学の教育・研究の分野において、多大な貢献をされたことに感謝の言葉が贈られました。

名誉教授授与が授与された先生方

高石吉登 名誉教授(元機械工学科教授)
高橋一郎 名誉教授(元機械工学科教授)
米田二良 名誉教授(元基礎・教養教育センター教授)
平山 弘 名誉教授(元自動車システム開発工学科教授)
局 俊明 名誉教授(元応用バイオ科学科教授)

2022 秋号
Vol.34IKUTOKUGAKUEN
News Letter 2022

幾徳学園同窓会会報

<http://www.kait-ext.com/kaitweb/>

■ 2022年10月1日発行 ■ 発行人/中山 裕之 ■ 発行/幾徳学園同窓会

○住所変更及び問い合わせは下記へご連絡下さい。〒243-0292 神奈川県厚木市下萩野1030
幾徳学園同窓会事務局(学生課内) gakusei@kait.jp TEL.046-241-9394 FAX.046-242-3529

幾徳学園同窓会 会長

中山 裕之

Message

会長ごあいさつ

幾徳学園同窓会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染が再度拡大し、過去最大の感染状況を呈している中、皆様の生活もまだまだ厳しい状況が続いているものとお見舞い申し上げます。大学では、対面授業、オンライン授業併用で前期が終了しましたが、後期も同様の形態での運営が予定されており、学生や教職員にとっても不自由な状況が続いております。また、ロシアによるウクライナ侵攻もいまだ終息せず、経済への影響がいたるところに及んでいることは皆様もご承知のことと思います。これまで同窓会としては、このような状況に対し各種の学園支援を行ってきましたが、改めて今後の支援について検討し、実施していきたいと考えております。

今年は静岡・東海支部会、各地区懇親会を予定しましたが、静岡・東海支部会は感染再拡大前であったことから、昨年以上の方の参加をいただき開催することができました。10月には各地区懇親会を控えておりますが、皆様の貴重なご意見をいただける場であり、世代間の交流の場であることから、直前まで感染状況を確認し開催可否の判断をしたいと考えています。

また、例年であればホームカミングデーに合わせ幾徳学園同窓会総会の開催をお知らせするところですが、ホームカミングデーが中止となったため、皆様にお集まりいただく形で同窓会総会の開催も見送らざるを得ない状況になりました。役員改選という重要な案件もありますが、感染防止のため昨年同様、同窓会ホームページからの議案書配布及び、ご意見の収集という形式での実施となりますのでご理解、ご了承の程お願いいたします。

今回の会報では、社会で活躍されている卒業生を紹介させていただいております。皆様も各方面でご活躍のことと思いますが、このような状況下ではあります但し益々のご発展を願っております。また、幾徳学園の沿革についても紹介しておりますので、改めて学園のこれまでの経緯についてご理解を深めていただければ幸いです。

この会報がお手元に届くころには新型コロナウイルスの感染が収束方向に向かっていることを期待しつつ、会員皆様のご健康・ご多幸を理事一同心より祈念しております。

※幾徳学園同窓会総会開催について

OB・OG 4名の卒業生をご紹介します

Contents

会長ごあいさつ 01
総会開催について
卒業生の活躍 02~05
来年度学園創立60周年 06~07
Information 08
役員改選
静岡・東海地区支部会懇親会報告
名誉教授授与式を挙行

幾徳学園同窓会総会開催について

学園側ホームカミングデーの中止に伴い、同窓会総会も感染防止の観点から例年通りの開催を断念し、昨年同様、小規模での開催とすることにいたしました。実施要項を以下に記します。

実施要項

- 開催日時:11月5日(土) 13:00~
場所:ITエクステンションセンター(本厚木駅前)
- 総会出席者は原則同窓会役員のみとし感染防止策を取った上で開催
※会員の方の出席希望については3密にならない範囲で考慮します
- 議案書は総会の一週間前にHPに公開する(閲覧用パスワードは下記)
※第三者への再配布は禁止させていただきます
- 議案書とともに投稿フォームをHPに設定し会員からの意見をいただく
- 総会では投稿された意見を共有し審議を行う

詳細が確定しましたら同窓会ホームページにてお知らせいたします。
例年通りの開催ができず大変残念ではありますが、皆様の安全第一を優先した対応でありますことをご理解いただきたく、よろしくお願い致します。

[総会議案書閲覧パスワード : ikudoso1105]

●幾徳学園卒業生数(令和4年3月末現在) 高専/1,152名 大学/37,616名 大学院/2,199名

卒業生の活躍

Interview

現場をトコトン知る努力を惜しまない その経験を活かして新規のモノづくりにつなげる！

倉持 正明 さん

1952年生まれ 神奈川県出身
1968年4月 幾徳工業高等専門学校(現神奈川工科大学)入学
1973年3月 電気工学科 卒業
1973年4月 株式会社東京計器入社 船用事業部技術部設計2課配属
1981年4月 同社 航空特機事業部技術部
1985年4月 同社 同部那須事業所品質保証部
(1990年10月 株式会社キメックに社名変更)
1994年4月 (株)キメック 新規事業推進室
1997年9月 子会社「株式会社トキメック・レールテクノ」創設
(2008年10月 社名変更「東京計器(株)」復活、子会社も冠を東京計器に同時変更)
2011年6月 東京計器・レールテクノ(株)社長
2018年5月 同社退職
東京計器・レールテクノ(株): 鉄道保線関連の検査機器の製造・販売及び検測役務サービスを行う日本で唯一の会社。代表製品はレール探傷車、分岐器検査装置。

社長職では、「会社を大きくしたい！」と猛烈に思いました。そのために、お客様の現状をトコトン追求し、自分たちの原点であるモノづくり、精密機械の会社の良さを、世の中に広く知らしめたいという思いがあったから、頑張れたのだと思います。ハングリー精神が機動力の一つですが、大変な日々にも関わらず、その経験が楽しかったことも事実です。

開発に携わり製品化、販売好調は大きな喜び エンジニアのやりがいとはモノづくりの醍醐味

小澤 勉 さん

浜松ホトニクス株式会社
電子管事業部 電子管企画部 部長

1961年生まれ 静岡県出身
1980年 4月 幾徳工業大学(現神奈川工科大学)入学
1984年 3月 工学部電気工学科 卒業
1984年 4月 浜松ホトニクス株式会社入社
電子管事業部第5部門配属
1988年10月 同社 電子管第1製造部第19部門
2018年10月 同社 電子管第1製造部
2020年10月 同社 電子管企画部 部長 現在に至る

光というものは解っていないことがたくさんあります。私たちの製品を使うことで今は計画できていないものが計画できるようになる、計画できるようになることで現在解っていない様々なことが解けるようになる、ということが将来の目標です。例えば、今は治せない病気を治せるようにするための検査方法を確立したいと思っています。

Masaaki Kuramochi

Tsutomu Ozawa

「本学を選んだ理由をお教え下さい。」

倉持 「高専」は中学生の進路として関心が高く、幾徳工業高専は私学でしたが、学費が安く、全国から学生が入学するので寮施設等が充実していることなどから受験しました。父が電気的设计をしていたので、身近だった電気工学科を選択しました。

「本学での思い出深いお話をお聞かせ下さい。」

倉持 中学校まで野球をやっていましたが、坊主が嫌で高専では野球部に入るつもりはなかったのですが、当時の野球部の副部長監督や先輩から熱心に勧められ入部。2年次の夏の全国高等学校野球選手権 神奈川大会で大会第1号のホームランを打ったことは懐かしい思い出です。

「華々しいご活躍をなさったんですね。次に現在の野球部との関わりについてお聞かせ下さい。」

倉持 卒業後、1993年に高専野球部OB会を作り、10年くらい前からは、泊りがけのOB会も実施し、全国に散っているOBとの親睦を深めています。さらに、「神奈川工科大学を応援して下さい」とお願いし2019年に野球部応援団を作り、応援団長としてSNSで召集をかけたり、応援に行ったりしています。今後は大学野球部OBとの交流を実現させ、野球部応援団をより拡大していきたいですね。

「120年以上の歴史を持つ国内初計器メーカーである東京計器に入社された理由と、どのような仕事を担当なさっておられたのかをお教え下さい。」

倉持 東京計器は父が勤めていた会社で、幾徳工業高専に求人があるかを確認して受けました。

船用事業部の設計に配属され、次に商船等の検査部門に異動。曲折を経て、世の中のニーズを探し事業化する新規事業推進室に配属されました。1964年の東京オリンピックで東海道新幹線が開業。それに合わせて鉄道事業部で超音波技術を活用し、レールの割れを探す「レール探傷車」を製造しましたが、高額なこともあり事業が縮小されていきました。JRや私鉄各社は、高い探傷車は買えなくても、レールの検査は欠かせないことに気づき、検査を代行できるアウトソーシングの会社を作ろうと、東京計器・レールテクノの創設に関わりました。最初の仕事は人探し。検査をしてくれる協力会社を探し続けました。そして鉄道会社からの探傷検査のアウトソーシングニーズに応えながら、探傷車を売り込む営業を続けました。

2011年に東京計器・レールテクノの社長に就任。歴史が浅いので、どうやったらお客様に信頼される会社になるか、その信頼を得るには、どのような製品を作ったらよいかなど、鉄道会社の現

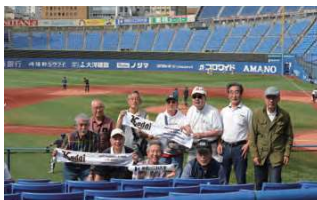
場の人たちの話を何度も聴き、何が必要なのか、ニーズを探し出す努力を継続して重ねました。**社長職も含め、仕事から得たことについてお話を聞かせて下さい。**

倉持 「製・販・技」、製造、販売、技術をトータルに経験できたことが自分の強みになったと思います。それぞれの現場を知っているの、課題についてきちんと理解ができる上に、適切なジャッジメントが可能な経営者になれたかなと思います。現場を知る努力とその経験を活かせるセンスを身に着けた人財になれたことが仕事を通して得られたと自負しています。

「本学学生にひと言をお願いします。」

倉持 社会人になってさまざまな仕事に就くと思いますが、モノづくりに携われることは、非常に楽しいことです。何事でもポジティブに楽しんで臨んで下さい。そして先を読む力や考える力を磨いていていただきたいです。

「今日はありがとうございました。」



横浜スタジアムで、野球部応援団のOB達と



小田急電鉄 探傷車 2003年
国内のレール探傷車の約7割は東京計器・レールテクノ製

「本学を選んだ理由をお教え下さい。」

小澤 小学生の頃から算数と理科の実験が大好きだった理系人間でした。幾徳工業大学は、当時、非常にレベルの高い先生方が揃っていたので、高校の先生の勧めもあり、推薦入学で入りました。

「本学での思い出深いお話をお聞かせ下さい。」

小澤 荻田研究室に所属し、半導体材料であるシリコンに関する研究を行いました。荻田先生は「電子回路演習」の授業をもっていたので、4年次には先生の授業に同行し、理解を助けるため2年生の学生に個別説明をしました。これはとても貴重な経験で、自分自身の理解を深めるにも有意義でした。先生は学生とのコミュニケーションを重視し、定期的に研究室で焼きそばパーティーを行ったり、大学の体育館を借り職員の方々とバレーボールをしたり。比較的若かった先生で、「アニキ的な存在」で研究室を盛り上げて下さり、公私ともにお世話になって楽しい学生時代でした。

1・2年次は食事付きの寮生活。まだ新しい寮で、



浜松ホトニクス製の光電子増倍管の集合写真

同年と1年以上の先輩だけで、ここで麻雀を覚えしました。また1年上の先輩が同学科で優秀だったので、テストの傾向などを聞いたりしました。3・4年次は、寮で隣の部屋だった化学工学科の友人と、アパートに移り、ルームシェアをしました。

「カミオカンデやスーパーカミオカンデで壁面にある光電子増倍管(光センサーの一つ)を製造なさっている浜松ホトニクスに入社された経緯をお聞かせ下さい。」

小澤 就職する前年(1983年)に浜松テレビから浜松ホトニクスに社名が変更され、日経エレクトロニクスの裏表紙に載っていた広告を目にしたのがきっかけです。荻田教授からも「ユニークで面白い会社だから受けてみたら」と勧められ受験。入社後は電子管事業部に配属され、光電子増倍管の製造に30年以上携わりました。

「浜松ホトニクスでどのような仕事を担当なさっておられたのかをお教え下さい。」

小澤 入社当時、紫外線を検出する製品の検査工

程で性能検査を行っていました。日々、かなりの数の性能検査をした経験から、測定の基本を学ぶことができました。その後、回路を扱う部署に移り、光電子増倍管の関連製品も手がけ、回路の基本的な部分を理解していきました。それから光電子増倍管を扱う部署に戻り、そこで医療機器を扱うことになって、医療機器の設計、ドキュメント関連の業務を行いPMDA(独立行政法人医薬品医療機器総合機構)への届け出も経験。ある意味ゼロから作り上げた感じでした。現在は、電子管企画部で新規事業のネタ探しや、開発案件を担当しています。電子管事業部の売り上げの約7割が海外なので、海外志向者もあり、その管理も仕事の一つです。

「[仕事の魅力]についてお話を聞かせて下さい。」

小澤 浜松ホトニクスはPhoton is our Businessという考え方で、光に関することであれば、新たなことにも挑戦させてくれます。それぞれの業務の中で、いつも新たな発見が得るように努力できる環境であることが魅力だと思います。開発品の設計・製品化・製造などすべて経験できますし、経験させてもらえました。それを次の世代につなげていくのが私の現在の仕事だと思っています。

「本学学生にひと言をお願いします。」

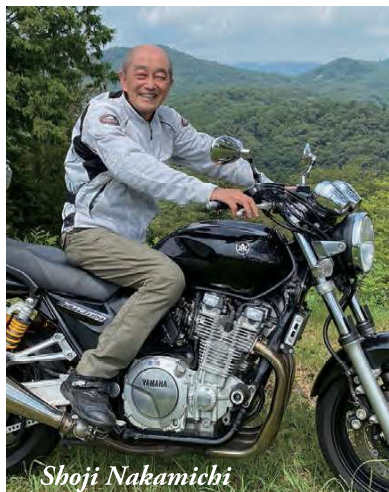
小澤 もっと自分の良いところを全面に出し、積極的に訴求できるような学生さんが増えると嬉しいですね。そして、自分なりの夢をもち、そこへ向かって頑張っていたいただきたいです。

「今日はありがとうございました。」

小澤 小澤さんが携わった感覚が高くノイズが少ない光電子増倍管

小澤さんが携わった感覚が高くノイズが少ない光電子増倍管

卒業生の活躍



Shoji Nakamichi

「本学を選んだ理由をお教え下さい。」

中道（昌） 小・中学生の頃から鉱石ラジオやトランジスタラジオを作ったりするのが好きだったので、電気工学科を専攻しました。幾徳工業高専へ進学した理由は厳格な父親に対する反抗心で、「親元から離れて生活したかった」というのが一番の理由かもしれません(笑)。

「本学での思い出をお話をお聞かせ下さい。」

中道（昌） 勉強面では、幾何学の先生の授業が印象的でした。「これこれ等し、これ等し～」の新理論？(笑)は今でも覚えています。常識破りのおかしな理論だったように思いますが、先生の柔軟な発想に魅かれました。

部活動は野球部に所属し夢の甲子園を目指しましたが、最後の夏の大会では2回戦で法政二高に敗れてThe End。1974年には第1回高専大会がスタートし、5年生の時に出場しました。学内、部活動、そして5年間の寮生活において、多くの経験ができたこと、そして多くの友人ができたことが現在の自分、そして活動のベースになっているように思います。また、コロナ禍前は、高専野球部OB会に出席していました。コロナが早く収束しOB会が再開できる日を楽しみに待っています。

「オートバイをメインに製造するヤマハ発動機に入社された理由と、どのような仕事をご担当なさっておられたのかをお教え下さい。」

中道（昌） オイルショック後の就職でしたので、複数の受けられず、「先決優先」で1社受かったら決定です。地元の浜松に隣り、ヤマハ発動機への

現地の方々と意思疎通しながら現地工場立ち上げ 試行錯誤でチャレンジし続け味わう達成感 Challenge to the next!

中道 昌司 さん

1954年生まれ 静岡県出身
1970年 4月 幾徳工業高等専門学校
(現 神奈川工科大学) 入学
1975年 3月 電気工学科 卒業
1975年 4月 ヤマハ発動機(株)入社 電装設計課配属
1980年 9月 ヤマハ発動機(株)子会社「IIC」へ出向
1999年12月 ヤマハ発動機(株) 海外生産部へ異動
2001年 1月 ヤマハ発動機(株) 調達本部へ異動
2009年 1月 ヤマハ発動機(株)子会社
「ヤマハモーターエレクトロニクス」へ出向
2014年12月 同社 定年退職
2015年 1月 ヤマハ発動機(株)取引先
浜松ガasket(株)入社
2017年 5月 ヤマハ発動機(株)取引先
(株)千代田製作所入社 現在に至る

常日頃から「意識を変えること」が大切だと思っています。意識が変われば行動が変わります。行動が変われば結果が変わります。結果が変われば未来が変わります。
また、「会話の言葉を変えること」も大切だと思っています。「現状維持言葉」ではなく、「現状打破言葉」を使うことで「意識が変わる」ように思います。
来年以降、愛車XR1300で「夢の北海道ツーリング」にチャレンジしたいと思い、企画中です。

入社を希望していましたが、求人が来ていなかったため、学生課をお願いして、募集要項を送ってもらったのがStartでした。

入社時は電装設計課に配属。1980年に子会社のIICへ出向し、19年間オートバイの電装部品を海外で製造する技術移転業務、及び、新商品開発を担当。2014年にヤマハ発動機を定年退職するまで、180回ほど海外出張で出国して業務を推進しました。オートバイ販売国の国策により輸入する部品の関税が高くなると、現地ではオートバイ価格が高騰し部品の現地生産が必要となります。そこで、現地への技術移転プロジェクトがStartし、電装部品の生産工場を立ち上げてきました。その結果、自国で電装部品が生産・供給できるようになり、現地産業の発展にも寄与することができました。

電装部品の生産工場を立ち上げた地域は、東南アジア、インド、台湾、中国。そのほか海外出張はヨーロッパ各国、イスラエル、アメリカ、ブラジル、アルゼンチンなど。その過程で多様な現地の方と知り合えたことが財産です。様々な会話をすると



検査機調整中の昌司さん

で、現地の文化を知り、驚くことも多々ありました。食事でも千差万別です。印象にあるのはインドのカレーと、スペインで食べたウナギの稚魚のアヒージョ、絶品！でした。

「「仕事のやりがい」について聞かせて下さい。」

中道（昌） 海外工場の立ち上げでは、生活習慣も言葉も違う現地の方たちと何度も会話を重ねます。理解してもらえない場合は、写真や図解を用いてビジュアルな表現を活用するなどの工夫を重ねていき、理解されることが喜びです。「海外工場を一緒に立ち上げて軌道に乗せる」、そのモノづくりのプロセスが面白くもあり、やりがいを感じました。

「本学学生にひと言をお願いします。」

中道（昌） 「CHALLENGE」という単語には、「CHANGE」「CHANCE（C：Gの変形）」が含まれています。変わって・変えてチャンスを得るか、チャンスをモノにして変えるか・変わるか、どちらでも構わないと思います。ご自身のスタイルに合った目標を設定し、失敗を恐れずに是非CHALLENGEし、前進して欲しいと思います。



昌司さんは終始 満面の笑み



Miki Nakamichi

「次は、お嬢さんの未起さんにお伺いします。 本学を選んだ理由をお教え下さい。」

中道（未） 周りと同じような進路ではなく、違った道に進みたいと思っていました。幼い頃から病院を身近に感じる機会が多かったため、将来は漠然と医療の道に進みたいと思っていました。そして、どのような職種があるか調べている中で「臨床工学技士」と出会い、ビビッと来ました(笑)。関東圏で臨床工学を学べる大学を探していて、神奈川工科大学で臨床工学が新設されることを知りました。父の出身校だったので「へえ～」と、そこで父に話したところ、父の学生時代からいっしょの高島先生に連絡をとってくれて、両親と大学見学に出かけました。大学周辺の環境が浜松に似ているようで、好感度アップ。高島先生に、「電気のことなら何でも聞きにきてくれていいよ」と言っていたので、高校時に履修していなかった科目に対する不安が軽減され、安心して大学生生活を送れると思い進学を決めました。

「本学での学びについてお話を聞かせて下さい。」

中道（未） 卒業研究はお人柄に魅かれた山家先生の「血液浄化技術研究室」を選びました。透析は腎不全の患者さんにとっては必要不可欠な治療で



職場をバックにした未起さん

ベースに「人と違ったことに挑戦したい」という思い あらゆることにチャレンジし、自分自身を高めていきたい

中道 未起 さん

1996年生まれ 静岡県出身
2015年 4月 神奈川工科大学 入学
2019年 3月 工学部 臨床工学科
(現 健康医療科学部 臨床工学科) 卒業
2020年 4月 浜松医科大学医学部附属病院
(臨床工学技士) 入職

仕事以外では、英検準1級の合格を目指し頑張っています。医療英検4級は大学在学中に取得したので、次は医療英検3級に挑戦する予定です。また、将来は海外でも活躍できるようになりたいと思っています。来年には「透析技術認定士」を受験し、ぜひ合格したいと思っています。さらに脊髄機能診断学会での発表にもチャレンジする予定です。

す。さらに、1回の旅行時間が長いため回路内凝固の対応をするとその分患者さんの不安や苦痛が増し、時間も長引きます。そこで、ハスの葉の攪水効果に着目して、回路内凝固を低減できないかと研究を進めました。研究は理解に苦しむことやうまく進まないことも多々ありましたが、その時の経験によって、些細なことにも疑問を持ち、透析業務により一層興味を持って挑むことができています。

「浜松医科大学医学部附属病院に入職なさった経緯と、現在どのような仕事をご担当なさっておられるのかをお教え下さい。」

中道（未） 地元での就職を望んでいたところ、浜松医大での臨床実習が決まりました。実習先が就職先になるケースも多いと聞いたことがあり就職につながったらいいと思いました。臨床実習では優しい方ばかりで、とても仲が良かったと思います。また業務も固定ではなく、ローテーションで様々な経験ができること知り、ここで働きたいと。また、他施設では臨床工学技士が関わることが少ない手術中の術中神経モニタリングや脊髄機能診断学会での発表に挑戦できるのも魅力に感じました。

仕事はローテーションですべての業務を研修するのを楽しみにしています。

中道（昌） 神奈川工科大学が娘の志望校の一つになったとき、すぐ大学に連絡がとれたのも私が同窓生だったから。幾徳祭に合わせて娘の寮へ行き、同窓会のホームカミングデーに参加したりしました。やはり同窓は嬉しいものですね。

「親子で同窓の中道さん親子にお目にかかり、昌司さんは特に嬉しそうなお顔だったのが印象的でした。お二人とも今日はありがとうございました。」

家族旅行でミラノへ

同じくアマルフィー

Interview

学園は、来年度学園創立60周年を迎えます。

神奈川工科大学の前身、幾徳工業高等専門学校は1963年、大洋漁業株式会社（現・マルハニチロ株式会社）の経営者・中部謙吉により、優れた人材を産業界へ送り出すための教育機関として創立されました。

建学の精神には創立者の熱い想いが込められています。

創立者・中部謙吉と大洋漁業

神奈川工科大学を運営する学校法人幾徳学園を創立したのは、大洋漁業株式会社（現・マルハニチロ株式会社）の経営者・中部謙吉である。1896年、兵庫県明石市に生まれた。父の中部幾次郎は魚の運搬問屋の5代目。謙吉は幼い頃から父より商売の薫陶を受けて育ち、高等小学校を卒業後、父の商売を手伝うようになる。

幾次郎は漁業のほか、海運、水産物加工、造船などの事業に積極的に進出し、戦前には総合漁業企業へと成長。南氷洋の捕鯨事業へと、グローバルに広がっていった。太平洋戦争中は所有する大型船をことごとく日本軍に接收され、事業もままならなくなる苦難の時代を経験したが、終戦と同時に幾次郎と謙吉は直ちに新会社を設立。大洋漁業株式会社として再出発した。

戦後の食糧難を救った南氷洋捕鯨

終戦後、日本は深刻な食糧難の時代を迎えていた。当時日本を占領統治していたGHQ（連合国軍最高司令官総司令部）も日本の食糧問題を憂慮し、問題解決の早道として漁業の振興を奨励していたが、終戦後の混乱期で漁業に力を入れようとする企業は少なかった。

そんな状況の中、謙吉は「広大な海洋資源により、食料の増産を図ろう」と200数十隻の船の建造計画を即決。GHQからの相談を受け、小笠原諸島海域での捕鯨を提案する。

GHQの賛同を受け、なんとか小笠原捕鯨を成功させた謙吉が次に目処えたのは、南氷洋での捕鯨事業だった。「南氷洋捕鯨を成功させれば、何万トンという食料を一度に日本へ持って帰れる。鯨油もとれるし、外貨も稼げる」と考えた謙吉はGHQにこの案を提案。GHQからの支持を受け、船・設備・食料・人そして国際問題など、さまざまな難題を乗り越えて、大洋漁業の捕鯨船団は南氷洋へと出航した。

南氷洋捕鯨事業の成功後、北洋サケ・マス漁業も軌道に乗り、大洋漁業は日本を代表する水産加工メーカーへと成長。現在のマルハニチロ株式会社として続いている。マルハニチロは、世界最大規模の水産物取扱量を誇る企業となっただけでなく、日本の食卓を支える食品メーカーとして、今も多くの人に愛されている。

私財を投じて高等専門学校を設立（日経新聞「私の履歴書」より抜粋）

謙吉が学校経営に乗り出したのは1962年。当時、国内には理系の専門教育機関が少なく、高等専門学校（5年制）はほぼ全て国立だった。

そこで謙吉は自ら理系人材の育成に乗り出そうと考えた。実はその10年ほど前から、中部家は「幾徳会」（現公益財団法人中部奨学会）と称して育英資金を若者に貸しており、延べ利用人数が4,000人を超えるまでになっていた。その後、貸し付けた相手から育英資金が返済されるようになり、中部家が最初に寄付をした基本金も加えると、原資は1億数千万円に上った。これに大洋漁業グループからの寄付金をいくらかプラスすれば、学校を維持できる。

そこで謙吉は、学校創設に着手することにした。用意したのは、神奈川県厚木にある大洋漁業保有の7万坪あまりの土地だ。その半分の3万5,000坪に、謙吉は5年制の高等専門学校を設立した。総工費10億円のうち、大洋漁業が6割、グループ各社が2割、そして残り2割を中部家が負担。授業料は国公立の学校より、少し高いぐらいに設定し、寄付金は一切要求しない。あくまでも最優先するのは、経済的に学生が学びやすい環境をつくること。今に連なる学生本位のこの方針を、謙吉は次のように振り返っている。

「国も予算の関係で理系の学校をなかなか作れない。小さな規模ではあるが、費用もかからず、空気のように心おきなく勉強できる学校を作り、社会の恩に報いたい」。

学園名の幾徳の意味

こうして神奈川県初の工業の高等専門学校「幾徳工業高等専門学校」が1963年に開学。国公立大学と変わらない学費で工業系科目が学べると評判を呼び、優秀な生徒が集まるようになった。

謙吉の父の幾次郎の徳を偲ぶことから「幾徳」を学園名、校名とした。

その後、1975年に幾徳工業大学を開学し、現在の神奈川工科大学へと続いている。



創立者 中部 謙吉（1896～1977年）

学校法人幾徳学園を創立した初代理事長。公益財団法人中部奨学会の創立者。大洋漁業株式会社（現マルハニチロ株式会社）元社長、大日本水産会長、全国冷凍食品輸出水産業組合理事長、経団連・日経連各常任理事を歴任。また、大洋ホーテックス（現横浜DeNAベイスターズ）元オーナー、当時、球界の名物オーナーとしても知られています。



創立者の父 中部 幾次郎（1866～1946年）

初代理事長中部謙吉の父。後のマルハニチロ株式会社となる大洋漁業株式会社を創立しました。漁業のほか、水産物加工、海運、造船などの経営に進出し、一大企業グループを作り上げ、下関商工会議所会頭、勲選貴族院議員ともなりました。また、世界的な経済紙「フォーブス」にて、世界の経済を作った100人のひとりとして、「幾次郎氏が成し遂げた水産事業は世界が脱帽」と紹介されています。学校法人名である幾徳学園は、幾次郎氏の徳を表現したものです。

役員の紹介

理 事 長	中部 謙一郎
理 事・学 長	小宮 一三
専 務 理 事	谷 村 浩二
理事・副学長	齋藤 貴
常 務 理 事	尾崎 亮典
常 務 理 事	保坂 精一
常 務 理 事	中込 寛
理 事	石田 裕昭
理 事	鈴木 隆
理 事	久保田 昌彦
理 事	久代 敏男
監 事	永井 俊行
監 事	川村 融

（2022年4月1日現在）

沿革

- 1962年** 幾徳学園および幾徳工業高等専門学校 設置認可
中部謙吉 理事長に就任
- 1963年** 幾徳工業高等専門学校を開校（機械工学科、電気工学科、工業化学科）
- 1975年** 幾徳工業大学 設置認可
幾徳工業大学を開学 工学部（機械工学科、電気工学科、工業化学工学科）
- 1977年** 中部謙次郎 理事長に就任
- 1986年** 工学部に機械システム工学科、情報工学科を設置
- 1988年** 幾徳工業大学を神奈川工科大学と改称
- 1989年** 大学院工学研究科修士課程を開設（機械工学専攻、電気工学専攻、工業化学専攻）
- 1990年** 大学院工学研究科修士課程に機械システム工学専攻を設置
- 1993年** 大学院工学研究科博士後期課程を設置（機械工学専攻、工業化学専攻、機械システム工学専攻）
同修士課程に情報工学専攻を設置
幾徳学園創立30周年記念式典挙行
- 1994年** 大学院工学研究科博士後期課程に電気工学専攻を設置
- 1996年** 大学院工学研究科博士後期課程に情報工学専攻を設置
- 2000年** 工学部に福祉システム工学科、情報ネットワーク工学科を設置
教育開発センター開設
- 2002年** 中部謙一郎 理事長に就任
- 2003年** 工学部情報工学科を改組転換し、情報学部情報工学科を設置
基礎教育支援センターを開設
学園創立40周年記念式典挙行
- 2004年** 情報学部に情報メディア学科、情報ネットワーク工学科を設置
- 2005年** 基礎・教養教育センターを設置
- 2006年** 工学部に自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科および応用バイオ科学科を設置
- 2008年** 工学部自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科、応用バイオ科学科を改組転換し、創造工学部自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科、応用バイオ科学部応用バイオ科学科を設置
創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科を設置
- 2010年** 応用バイオ科学部に栄養生命科学科を設置
大学院工学研究科にロボット・メカトロニクスシステム専攻を設置
- 2013年** 幾徳学園創立50周年記念式典挙行
- 2014年** 先進技術研究所を開設
- 2015年** 工学部に臨床工学科を設置
看護学部看護学科を設置
- 2020年** 看護学部に管理栄養学科、臨床工学科を設置
看護学部の名称を健康医療科学部に変更